

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほしのごアルファ			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		～	2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		～	2025年 12月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の成長に合わせた活動内容の実施	児童一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画に基づき、計画的かつ継続的な支援を実施しています。日々のミーティングで支援内容、児童の様子を職員間で情報共有し、職員それぞれが児童の興味・関心に合わせて活動を展開しています。	保護者より学校の様子や日々の様子を共有いただく事を通して、各児童個別の課題に取り組むだけでなく、全体的な課題点を掘り起こし、状況に応じた活動展開の幅を広げる事に繋げていきます。
2	児童の主体的な成長を促す環境づくり	年間行事や地域行事等、各年齢層の児童が相互に関わる機会を意図的に設け、交流活動を通じて社会性や協調性の育成を図っています。活動中を含め、異年齢交流を通じ、年上児童が年下児童をサポートする役割を担うなど、主体的な成長を促す環境づくりを行っています。	交流活動後の振り返りや職員間の情報共有を充実させ、異年齢交流の効果的な実践方法について検討を行います。児童の主体性や社会性の育成に資する活動内容の工夫を継続的に行っていきます。
3	利用者・家族との信頼関係	利用時の様子や支援内容について、保護者に対して日々の連絡や記録を通じて詳細かつ具体的に共有しています。また、学校や関係機関との情報共有を行い、児童の状況に応じた支援の連携を図っています。	保護者や関係機関からの意見や工夫を取り入れ、相談支援体制の充実を図ります。児童および家族への支援の質を高めるため、職員の育成、対応力の上にも取り組んでいきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容の標準化と統一に関する課題	職員間で支援のアプローチ方法や対応の仕方、工夫の共有は行っているものの、日々の支援内容の標準化や統一が十分とは言えず、認識に職員ごとの支援のばらつきがあり、共通認識で動けない場面があります。	支援のマニュアルや方法、支援指針の整備を進め、新しく入職した際の研修やケース検討を通じて支援方針の統一を図り、具体的に何をするかを明確にしていけるようにしていきます。
2	家族支援とペアレントトレーニング等の実施	保護者対応や個別相談を通じた支援は行っているものの、教室開催でのペアレントトレーニングや家族支援プログラムの実施には至っていない点が課題と考えられます。	環境変化が大きい時期（新学期・長期休暇等）を中心に、ペアレントトレーニングや家族支援プログラムの企画・実施を検討し、保護者の対応力向上、困り事、相談事に向けた支援体制の構築を進めていきます。
3	環境設定と空間活用に関する課題	活動スペースや設備について工夫を行っているものの、児童の特性や活動内容に応じた環境設定について、整理されていないことが要因と考えられます。利用者数や活動内容の変化により、空間の使い分けや環境調整が行えない場面があることも要因と考えられます。	児童の特性や活動内容に応じた環境設定の工夫について職員間で共有し、環境の調整を行います。活動内容に応じたスペースの使い分けや物品配置の見直しを行い、落ち着いて活動できる環境づくりに努めます。環境設定の効果について振り返りを行い、継続的な改善につなげていきます。